

記念祭の意義

高木 山本健司さんから始まり、記念祭を全体的な立場で、各々の代について語っていただいたのですが、もう少しだけ個々の内容につきまして自由に話して下さい。皆さん方にとって記念祭は一体何だったのかということも含めて、できるだけ簡潔にお話していただきたいと思っております。

大仁 折角11代の方々に集まっていたいいるので大きな節目になったようなところを話してあげませんか。例えば体育館改築とか、本館改築のことなど。また、本中館の間に自治会の執行部の部屋があったわけですが、それが南館西端のピロティーに動いたとか。執行部の合宿を始めたのも児玉君の代で、合宿のテーマも一般的な「自由とは何か」とか、「自治とは何か」というような合宿をしたのが、宮尾君の代になってからは記念祭そのものに絞って合宿やり出した。大きな基本的な変化も是非抜かさんように言ってもらった方がはいいのでは…

山本健 僕らの頃は合宿は全然なかったですね。だから合宿ってどんなものか全然わからないし、昔の本館には今言われましたように3階に講堂がありまして、小さい舞台があったから、そこで有志の公演などをやっていたね。41代の山本君のフォークダンスの話の聞いていて思ったのですが、異性と手をつないで肉体的に接触できるわけですから「やりたいなあ」という感じがありました。それが、強制参加にしなければならない状況があると聞いて、まずエーッと思う所がありますね。僕らの時は体育の時間に先生が教えてくれるというシステムはなかったですから、男子部女子部がある運動部例えばバスケット部、軟式庭球、硬式庭球で、その年ごとに1つのクラブを選んで、まず体育の先生が先立って教えるんですよ。その男子女子が覚えて昼休みに踊るんですよ。練習の時には100人も200人も集まりませんから、よく集まって100人位でしょうけど、でも最後の日になってきたらその輪が大きくなって、最後には大きな輪が2つ3つできる、という感じだったんですね。だから、なんでそんなところで強制せなあかんのかなあとい

う感覚がありますね。生徒の雰囲気が変わっているのかあという感じは受けましたね。

山本光 僕らはフリーのダンスというのもやったんです。自由な意志で輪に参加してくれるのだろうかという様子見もあって、音楽だけ流して、中央で踊る人もあり、それを見て踊って下さいみたいな感じのものです。ただ結果としては、一部さくらをつくったんですけど、出て来ませんでした。

2回目の記念祭もそうなんですが、誰かが出だすと僕らも行こうとかか、「もう最後の5分です」というと出てくるんですが、なかなか自分からは行く気にはならないというのが実際なんですよ。自由にすると、女の子に声もかけないといけなし、それができない子は大変だというのがありましたし、照れてるというのがありましたので、なかなか輪を作れないという状態です。

安藤 そういう状況は児玉さんの代の頃からありました。僕らの頃はフリーのフォークダンスだけでしたが、情けないことに黙っていても入ってくるというのはあまりなかったですね。僕が副会長の時は拡声器を持って「入ってこーい」と言いながら走り周ってたんです。そしたら、非常に怒る人がいて、「皆お前みたいな人間ちゃうねんから入れるかい」とか言われたりもしました。やっぱり若者は変わっているんじゃないかという結論に達してしまうのです。

山本光 山本さんの代で当然できたようなことが僕らの代には全然できていない。だから、お祭ではない堅苦しい講演会とかは寄りが悪いんとちがうかな。というのは、お祭の部分である自治会展示の模擬店まで寄りが悪くなってます。お祭に対する客観視というか、執行部が何かやってるなあという感じですね。だから執行部が記念祭をやっているというのが最近の傾向ですね。それで執行部だけがしんどいというのがありますね。

山本健 自治会展示というのは僕らの時のクラス展示でしょ。クラス単位でそういうのをやると、当然クラス替えがしてからまだ1ヶ月2ヶ月しか同じクラスになって期間がないでしょ。僕らが全部移動せずに分離した案というのはそこがひとつあるんで

すね。秋であれば、夏休みをはさんで準備期間もあるし、クラスのどういうやつを中心にすればクラスがうまくいくか、そういう雰囲気がつかめてるでしょ。だからそういう意味でクラス単位で取り組めるものは秋にして、文化部の方は、主力となるべき3年生が秋になるともう夏休みを境にして抜けるから、文化部は春にもってくれば主力となるべき3年生がまだいると考えたのです。僕は全部移動したという話を聞いて、これでいいのかなという一抹の不安はあるんです。だから、個人的な印象としては、クラスごとに取り組むのは秋の方がいいんじゃないかなと思いますね。

それともう1つ、確かに進学という問題は大きいものかもしれないけれど、僕らの心意気としては、芦屋高校というのは自由な学校だという感じがあったんですよ。他の学校とは違うんだ、本当に自分たちがやりたいことをやっていくのが本当の姿じゃないか。他の学校ではやっていない文化祭と体育祭をいっしょに長い期間を使ってやっている。この受験地獄と言われている時代に今だに秋にやっている、というのが心の中にありましたね。それが無くなってしまって時代の波に流されていったのかな、そういうのを聞いて淋しいなと思う反面、どうしようもないことなのかなと思います。とにかく僕らでやるという意識は少なくとも執行部にはあったですね。そのへんでどうかな。

佐藤 僕がやった体育祭ですけど、1年の時は途中で中止にしてしまったんです。それで後から3年の先輩や1年・2年からも「なんでやめたんや」と言われ運動部からも言われました。そういう所を見ると、結構やる気はあるんで、やる気はあったんだなあという感じはします。

山下雪 私は3年生で怒った中の1人だったんです。あれは本当に悲しかったですよ。女の子はわかると思いますが、ユニフォームはすごい大変なんですよね、男の人が思ってるよりか。女の子にしてみれば、皆が見るわけですから結構必死で作るんですよ。

あの時は連絡もすごく悪かったんです。結局体育祭なしで、折角のデコレーションも見る間もなく終

わってしまったんです。

高木 今、体育祭の話が出てきましたんですが、32回は体育祭は3日目だったんですが、それ以後ずっと初日に体育祭というパターンが9年続いているわけですね。初日の体育祭は非常に記念祭の効果を高めてるような気がするのですが、その辺のあたりどうでしょうか。

体育祭について

平井 初日の体育祭というのは、高校生は力があり余ってます、純粹にパワーが発揮できると思いますので、やっぱり最初にボンと置いておいてこれから記念祭だという雰囲気を作るのにふさわしいんじゃないかと自分は考えてたんです。

山本健 それは僕らの時も思いました。僕らの時は、当時のクラス展示（今で言う自治会展示）と体育祭は裏はら、雨が降ればクラス展示をやる、晴れならば体育祭・クラス展示の順番でやるという形でした。そうすると、当然前日の準備って忙しいですから、普段参加してない者でも準備に参加する。体育祭のデコレーションを作るにしてもクラスの所に来て、木の1つも持ったりベニヤ板の1枚も持ったりして一応それに参加するわけですね。体育祭が頭にあると、ああこれで記念祭が始まるんやなという感じでみんな参加できるから、僕らもそれを頭にもってきたところがありますね。

僕らの時はその前の日に開幕式をもってきて5日半の日程だったんですよ。皆が集まってちょっとしたセレモニーをやりました。僕らの時は弓道部に頼み、壘を立て4つの直径1メートルくらいの風船を並べ、第何回記念祭という字をその風船の裏に隠して、50メートルくらい離れて弓道部が1個ずつ当てていくというのです。当たったところでみんなに配っていた風船をパーッとあげて、始まり始まり、じゃデコレーション作り始めましょう、と散っていった感じでした。

文化部展示について